事業報告書

２０１３年度　公益社団法人　呉青年会議所

理事長報告

理事長　有本　雄一

２０１３年度　社団法人呉青年会議所は広島県の青年会議所として唯一、公益社団法人格を取得し、６月７日に公益社団法人呉青年会議所に生まれ変わりました。

公益団体としてより公益性の高い活動をすべく、本年度は「Be Happy」をスローガンに「体の元気と心の元気」をテーマに１年間、分かり易さを心がけ事業を展開してまいりました。

体の元気「健康的な体づくりとスポーツ振興」

①健康的に痩せる

日本人の肥満者の割合を見てみると、先進国の中では少なく、日本人はスリムな人が多いと言えますが、欧米に比べるとＢＭＩが比較的小さくても糖尿病など生活習慣病にかかりやすいというデータが出ています。

また、メタボリックシンドロームの人はそうでない人と比べ生活習慣病にかかる割合が格段に上がり、医療費も年間約１０万円余計にかかっているデータも出ています。

そこで今年度呉青年会議所では健康的に痩せるプログラムの提供、実践を行いました。間違ったダイエットをしてしまうとリバウンドなどが起こり健康とは逆の効果が出ることがあります。しかし正しい運動と適切な食事の仕方のプログラムの実践により、参加者の方には一定の効果をもたらすことができ、健康に対する意識が向上した方がほとんどでした。

この事業で生涯を通しての健康維持の理解を深め、健康なまち呉市に貢献する一助とすることが出来ました。

②健康的な体作り

呉市は高齢化率３０％を超し、１５万人以上の都市の中で全国一の高齢のまちとなっており、今後も高齢化率の上昇が予測されています。

また呉市の医療費は全国平均の約１.４倍かかっており今後も増え続けることが予測され呉市の財政にも大きく負担をかけています。

そのような中、高齢の方が健康になり元気になって頂ければ、高齢化は進んだとしても、まちは元気になると考え、ラジオ体操の普及を目的とした事業を行いました。

正しいラジオ体操を普及することで健康習慣を身に着けて頂くことは勿論のこと、夏休みに地域の子供たちと高齢者が一緒にラジオ体操を行うことによって新たなコミュニティ

ーの形成や拡大に繋げることが出来たと思っています。
　また現在、２０１４年度夏季巡回ラジオ体操招致の申請を行っています。結果は来年にならないと分かりませんが、招致に成功しラジオ体操が呉市に益々定着し広まっていくことを期待します。

③スポーツ振興
　近年の子供は体力が低下しているというデータが出ています。しかし決して能力が劣っているわけではありません。外で遊ぶ機会が減るなど様々な要因があると思いますが、スポーツをするきっかけや環境を与えることが出来れば、骨格は以前より発達していますので、体力や運動能力は向上すると思います。
　また、スポーツマン精神という言葉がある通り、スポーツをすることにより精神面での健全育成にも繋がると考えました。
　そこで２回の事業で計１６名の様々な競技のトップアスリートを呉に招き、技の披露や上達塾を行い多くの子供達と触れ合う機会を提供しました。普段間近でなかなか見ることが出来ないトップアスリートの技を見ることができ、また、その競技を直接教わることにより、生き生きとした子供達の姿、上達する様子を見ることが出来ました。
　この事業を通してスポーツの素晴らしさや、子供たちの素晴らしい可能性を改めて感じることが出来ました。

心の元気「心安らぐ存在との出会いの提供」

　先にも触れましたが、呉市は全国を先駆けて高齢化が進んでいます。そして全国の生涯未婚率を見ても男性で約２０％、女性で約１０％と生涯１度も結婚しない人が増える傾向にあり、２０代～３０代の交際相手がいない人も５０％を超えています。そして出生率も１.３９と低い数字になっています。
　そこで呉青年会議所としてもっとも分かり易いまちづくりとして、男女の出会いの場を提供する事業を展開してまいりました。全４回企画し、１回は台風接近による天候不良のため開催は出来ませんでしたが、残りの３回は何れも定員人数を超える多くの方に参加して頂き、多くの笑顔を見ることが出来ました。
　この事業では新しいカップルも生まれ、一定の成果は出たと感じています。

公益社団法人として

　本年６月７日に公益社団法人格を取得し、公益社団法人呉青年会議所として新たな歩みを始めました。会員減少に歯止めが効かない中、６１年間の歴史の重みを噛みしめつつ、変えてはならないことと、変えなければならないことを見極めながら、様々な改革を勇気

をもって行いました。公益社団法人格を取得しましたが、我々の基本理念は「明るい豊かなまちづくり」で、これまでと変わりはありません。公益団体としてより公益性の高い活動が求められますが、公益性の高い活動をするためには、やはり内部の強化、我々ＪＡＹＣＥＥの資質向上、能力開発は必要不可欠です。

そこで資質向上、能力開発オリジナルプログラムを作成し、セミナー等を数回行いました。まだまだ十分ではないかもしれませんが次年度以降も対応できるプログラムとなっていますのでバージョンアップし活用してもらいたいと思います。

いかに公益性の高い事業を立案し、企画しても多くの皆様の目に触れ知って頂かなくてはなりません。そこで今年度の広報の窓口は１つとし率先して広報活動を行いました。

一定の効果はあったと思いますが、大きな効果があったとは言えません。我々呉青年会議所は、良い活動、良い事業を行っている自負はありますが、残念ながら市民の皆様の認知度は決して高くないのが現状です。青年会議所の良さでもある単年度制が認知度という観点からするとマイナスになっています。

そういったことも考慮し本年度は分かり易い事業の展開を心がけ呉市に心の元気と体の元気を発信しました。今年１年でまちが大きく変化したとは言えません。

しかし、あきらめず地道に青年会議所活動をすることでいつの日か大きな変化が起こることを信じています。

最後に

２０１３年度　公益社団法人呉青年会議所は多くの市民の皆様、呉市をはじめとする関係諸団体の皆様、そして多くの企業の皆様に多大なるご協力を頂き１年を終えることが出来ました。当団体だけでは良い事業は行っていけません。今後も皆様と協力して、呉のまちが明るい豊かなまちになることを目指し精一杯活動させて頂きます。１年間大変ありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　為敷秀雄

６１年目を迎えた呉青年会議所、有本理事長の下、「Be　Happy」をスローガンに掲げ、３室７委員会で事業を展開してまいりました。

担当させて頂きました元気☆ハツラツ室におきましては、「体の元気　健康的な体づくりとスポーツ振興」を基本方針に３委員会で事業を実施しました。

健康☆スリム委員会では、健康的に痩せるを目標に事業を実施しました。参加して頂きました皆さまは真剣な表情で、積極的に取り組んで頂きました。健康になりたいという意識を常に持って頂くきっかけになったと思います。

S☆１委員会では子供のスポーツ離れを少しでも解消したいと事業を実施しました。今の力に満足する事なく、何事ももっと出来るようになりたいというチャレンジする事の意識づくりになったと思います。

熱血☆ラジオ体操普及委員会では、高齢者を中心に健康づくりを行いました。身近な体操であるラジオ体操を毎日行う事を意識して頂き、健康意識を高める事が出来たと思います。

本年度、行なった事業内容全てにおいて来年以降も継続して頂く事で更なる健康づくりに繋がると考えます。又地域の周りの方に広めて頂き、呉市が今以上に健康的で元気な町になる事で明るい豊かな町づくりに繋がっていくと考えます。

６月に公益法人となり、今までとは同じように事業を行う事が難しい状況となりました。来年以降、毎年毎年色々やり方を工夫して事業実施する事が必要になると考えます。しかし、常に参加者の事を一番に考え、事業を行なっていく事が大切であると考えます。

最後に藤井室長、森田委員長、神垣委員長、三宅委員長をはじめとするご協力を頂きました全ての皆さまに感謝を申し上げ副理事長報告とさせて頂きます。

１年間ありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　道原　正嗣

２０１３年度呉青年会議所は、有本理事長の下、『Be　Happy』をスローガンに５つの基本方針で事業を展開し、活動して参りました

本年度は「元気」をキーワードに市民の方々に元気になって頂くための様々な事業を展開してまいりましたが、市民の方々だけではなく、我々も市民の方々から「元気」を頂けた一年間であったと思います。

また、担当させて頂いた「ひとづくり室」におきましては、『心の元気「心安らぐ存在との出会いの提供」』『会員増加及び個々の資質の向上』の２つをテーマに一年間事業を展開してきました。

前者については、例年にない取り組みではありましたが、各一年間の事業を通し、３００名を超える方々に事業に参加していただき、様々な方と数多くのの出会いをしていただきましたが、参加していただいた方の表情を見るたびに、こちらまで元気になれるような事業だったと思っています。

後者については、9名という未来の地域のリーダーとならんとする活力あふれる若者（同志・仲間）と出会うことができました。

彼等とは、様々な実践的な事業を通じて、考察力・公共心に磨きがかかり、来年以降の呉青年会議所の大きな戦力になっていただけると思っています。

このテーマを完遂できたのも、濱本室長の下、船田委員長及び繁山委員長そして委員会スタッフ・メンバーはもちろんのこと、呉青年会議所のメンバーに対しても感謝の気持ちと共に、仲間の大切さに気付かされた一年でした。

最後に副理事長という大役を仰せつかった一年間で、多くの方々と出会い、学び、経験することができ、私の大きな財産となりました。

また、本年度、呉青年会議所の活動にご協力いただいた皆様に感謝し、次年度以降も呉青年会議所のメンバーとして邁進してまいります。

本当に一年間ありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　吉田　真也

より公益性を意識した事業展開を進める一方、ＪＡＹＣＥＥの力向上委員会では「強固な組織運営の確立」を目指して年間事業を進めてまいりました。

その中でも、６０余年変わる事無く脈々と引き継がれている「例会」では近年達成する事が出来なかった１００パーセント例会の達成から、会員意識の向上を通して質の高い事業実施と意識の変革に繋がるきっかけになったものと考えます。今後も先輩方々から受け継がれてきた呉ＪＣの伝統、よき慣習を継承し、守るべき事、変えていくべき事をしっかり議論して呉ＪＣのＤＮＡを次世代に伝えていきたいと考えます。

また、組織力の強化を目指す上で、ＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての成長も欠かせない事だと思います。そうした成長に向けても、今年度はパワーアッププログラムと題して３回のセミナーを実施してメンバーの資質の向上と能力開発にも積極的に取り組んでまいりました。今後も地域貢献活動を行う上で直接的なアプローチをしっかりおこなって行けるように会員の資質向上、能力開発は必要不可欠であると考えます。

広報事業として、呉の元気発信委員会では、ホームページ、ＳＮＳの充実はもちろんの事、本年度行った全ての事業を迅速かつ効果的に広報すべく内部規範の充実と関係諸団体との繋がりを密にして広報事業を展開してまいりした。

その中でも、毎年４月に開催される呉最大の祭りである「みなと祭り」では、スポーツ振興事業 with athlete Ⅰをラジオ CMを用いて告知を行い、マスメディアとも連携して広く事業を告知、宣伝するなど実践的広報事業としてもより高い成果を得る事が出来たと考えます。今後としても単年度での繋がりだけでなく本年度、構築した繋がりをしっかりと次の世代にも繋げて行き、広く我々の運動を市民の皆様に知って頂く事が必要であると考えます。

本年度、総務広報室を担当させて頂いた副理事長として、「会員の資質の向上」「次世代に向けた強固な組織運営の確立」「多方面に渡る広報活動の強化」を目指し、ＪＣ運動を展開してまいりましたが、今後もＪＡＹＣＥＥとしての役割を確認し、地域社会に貢献できる団体として進化して行けるよう努力を続けてまいりたいと考えます。

専務理事報告

専務理事　松岡　秀直

１年前のご挨拶の中で「専務理事の立場から組織の円滑な運営・管理を進め、それぞれの事業が目的を達成できるよう粛々と役割を果たす所存です。」と書かせて頂きました。
１年間専務理事を勤めさせて頂いた今、１年前に書かせて頂いた役割を果たすことが出来たかと言われると、出来た部分と出来なかった部分があると感じています。

出来た部分は、各種会議に於いて概ねメリハリを効かせたスムーズな司会進行が出来たのではないかと思います。そう出来たのも事務局長、セクレタリー、事務局員の強力なサポートがあったからだと感謝しております。
出来なかった部分は、上程に至るまでの各ラインとの調整が不十分であった面がありました。
また本年度、社団法人から公益社団法人へ移行致し、会計面が大きく変わりました。事業費率５０％を達成するため、事業費の振分け等、暗中模索でしたので、本当にこれで良かったのかと思う点もありました。

青年会議所の役職は１年間で同じ役職を歴任する事はありませんので今年度自分が出来た部分、出来なかった部分を次年度以降の専務理事に伝えていく事が専務理事経験者としての今後の役割だと思いますので、しっかりと伝えていきたいと思います。

最後になりますが、今の私は１年前の私よりは確実に成長する事が出来ました。それも専務理事という役を与えて頂き、支えて頂いた全ての人のお陰です。この感謝の意を次年度以降少しずつ返していこうと思います。
ありがとうございました。

事務局長報告

事務局長　盛谷　剛

呉青年会議所は、１９５２年の設立以来６１年の長きにわたり活動を行い、呉のまちづくりに大きな影響を与えてまいりました。しかし、近年では、会員数の減少、ＮＰＯなどの専門性をもった公益活動団体も数多く運動を行っていることなど、我々を取り巻く環境は大きく変化しており、我々の取り組みを今一度見直すことが社会から求められていると感じています。

このような社会的背景に伴って公益法人制度改革が施行され、本年６月７日より、呉青年会議所も「公益社団法人」として新たな一歩を踏み出しました。公益社団法人移行認定に関して、ご指導・ご支援を賜った多くの皆様に、先ずもって心から感謝申し上げるとともに、我々が理想とする「明るい豊かな社会の実現」のためにも、公益を担う存在としての高い志と、社会に対する責任意識を持ちながら、今後一層、積極的に公益活動を行っていく必要を感じています。

さて、本年度、事務局長として、各種会議の運営や予算の管理などを行ってまいりました。１年間にわたり職務を全うするなかで、これらの業務が内外に対して、とても大きな影響を及ぼすことを、身にしみて感じとることができました。

呉青年会議所は、会費収入を基に運営しておりますが、近年の会員減少に伴い、相対的に収入も減少しています。このような状況のなか、例年同様の予算構成をすると、事務局の運営費や会員手帳の作成費、ホームページの運営費といった管理費が支出の大部分を占めることとなり、「公」を見据えた事業には僅かな予算しか支出することが出来ません。本年度では、少しでも多くの予算を「公」を見据えた事業活動に支出するべく、会員手帳の廃止やホームページ運営費の削減など、あらゆる管理費を徹底的に削減しました。

また、事業に賛同いただいた企業から寄付金を募り、参加者からも事業費の一部を負担していただいたことで、公益認定法に基づく純粋な「公」のための事業予算を例年に比べて、およそ倍増させることができました。事業の量的拡大と質的向上を図るためには、予算の増加は必要不可欠であり、予算管理の責任者として、一定の責務を果たせたと思います。

時代の移り変わりはとめどなく、今後も社会の趨勢を見定めて活動を見直していく必要があると思いますが、これまで諸先輩方が培ってきた活動の理念は決して見失うことのないよう留意してまいりたいと思います。最後に、１年間に及ぶ私の拙い運営を暖かく見守ってくださった多くの方々へ、心からの感謝を申し上げ報告とさせていただきます。ありがとうございました。

室長報告

元気☆ハツラツ室
室　長　　藤　井　　聖

「心・技・体」という言葉がある。
「体よりも、技術よりも、まず心が充実しなければならない」という意味だと思う。
しかし、私が敬愛してやまないプロゴルファー・ジャンボ尾崎こと尾崎将司は、この言葉を「体・技・心」と表現する。
曰く、健康的な体なくして、技術を習得する為に不可欠な血の滲む努力に耐えられず、技術の習得なくして成果は期待できない。そして、その充実した成果が心の安定を可能とさせる。
彼の言葉を日常生活のレベルで語ると、体に不安があったり体調が優れなかったりすると、技術を学んだり、今日１日頑張ろうという気力すら起きない。
「技よりも、心よりも、まず体が充実しなければならない」ことが大切である。
そこで、元気☆ハツラツ室は「体・技・心」の「体」をテーマに挑んだ。

Ｓ☆１委員会は、少年少女がスポーツを通じて健全な心と健全な体を手に入れる事を試みた。これにより、いずれは事業に参加した子どもたちが、スポーツによって、忍耐力と自制心を鍛え、社会に負けない人間となってもらいたい。

健康☆スリム委員会は、若者世代から中年者にメタボリック症候群が齎す成人病撲滅を試みた。これにより、今後の地域社会を支える若者世代の健康が促進してほしい。

熱血☆ラジオ体操復活委員会は、高齢者の末永い健康維持を試みた。これにより、おじいちゃんおばあちゃんが常に医療に依存することなく、健康的な体づくりを継続してほしい。

果たして、この願いは叶うだろうか。

その判断は皆さんにお任せしたい。

三つの試みの内容は、各委員長の事業報告をご覧ください。

室長報告

ひとづくり室
室長　濱本陽平

本年度、ひとづくり室、室長としてアカデミー委員会と、心の元気委員会を担当させていただきました。

アカデミー委員会では、会員拡大と仮入会を即戦力となるよう指導していくという目的のもと、１年間を通し活動を展開してまいりました。

ここ数年の会員減少の問題は呉青年会議所の最重要課題と言えますが、会員拡大に特効薬の様な手法はなく、候補者１人１人に対して適切なアプローチ、勧誘、青年会議所の魅力を分かりやすく的確に伝える事、候補者の入会に際しての不安点等を共に考える、このように様々なポイントを大切にしていかなければならないと感じながら会員拡大を展開してまいりました。

繁山委員長をはじめメンバーの皆様一丸の情熱のこもった会員拡大の結果２０１３年度は１０名の心強い仲間を得ることが出来ました。

心の元気委員会におきましては、独身男女を対象に出会いのきっかけとなる場を提供しそれにより地域の活性化にも繋げるという目的のもと事業を展開してまいりました。計画段階からどういう手法が良いのかなど、多くの意見を出し合い悩みながらも船田委員長をはじめ、スタッフ、委員会メンバー全員が想いを１つに１年間を通して休む暇なく動いた結果、委員長の思い描く事業が出来たのではないかと思っています。

最後に室長としての役割を全う出来たかどうかは分かりませんが周りの助けもあり１年を終えることが出来ました。関わっていただいた全ての方々に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

室長報告

総務広報室
室　　長　宍戸　勇二

本年度、総務広報室では、強固な組織の再構築、ＪＡＹＣＥＥの力向上、事業動員における事業広報に重点をおき事業を展開してまいりました。

折口委員長率いる、呉の元気発信委員会では（公社）呉青年会議所の全事業の動員を一手に担うよう事業展開をおこないました。今までの広報委員会ではホームページの運営管理、事業告知、事業報告等（公社）呉青年会議所をＰＲすることが主な事業内容であったが、本年度は新たに広報委員会が主導し事業動員活動をおこなった。当然各種マスコミと連携し事業告知することで、より効果的な事業動員できると考えたが結果として動員が伸びる事業と伸びにくい事業があり、今後は今まで以上、参加者の皆様に求められている事業であるのかを熟考しなければならない。事業告知も無償で告知できる事業とできない事業があり、どのようの事業なら無償で告知出来るのか、マニュアルを作成し年間事業作成時には各委員会と連携し各種事業の広報活動を含めた年間事業計画の作成も必要である。

明神委員長率いる、ＪＡＹＣＥＥの力向上委員会では総会運営、例会運営は無論のこと、ＪＡＹＣＥＥの力を向上するべくＪＡＹＣＥＥの力パワーアッププログラムを作成した。このセミナーは講演会から始まる３部構成のセミナーであり、第１部ではＪＡＹＣＥＥと地域のリーダーをテーマとした講演会を行った。パワーアッププログラム２ではＰＭ理論を学び、集団機能と言う観点からリーダーシップの類型化を試みた。ＰＭ理論のＰ機能は集団における目的達成を思考、課題解決に向けて計画立て、部下統率力であり、Ｍ機能はチーム内で満足度や凝集性を高める事であり、現在の自分達はどのくらいのレベルのリーダーシップを持っているのか再認識した。リーダーとして今後はどのようにあるべきなのかを学んだ。パワーアッププログラム３ではＳＬ理論の観点から考えた。ＳＬ理論では①指示的リーダーシップ、②説得的リーダーシップ、③参加的リーダーシップ④委任的リーダーシップの４種類のタイプがあることを学び、そのときの状況下によりどの行動を選択すればより効果的な行動であるのかリーダーは状況に応じてそのスタイルを変える必要がある事を学んだ。今後はより魅力あるＪＡＹＣＥＥとして地域を引っ張って行くことが出来るようなメンバーへと成長することを期待する。

最後になりますが今年度事業をおこなうにあたり多くの人にご協力いただきましたことに感謝申し上げまして室長報告とさせていただきます。ありがとうございました。

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

健康☆スリム委員会
委員長　　森田　旭

〔スローガン〕

Ｔｒｙ！！Ｌｅｔ‘ｓ　ｍａｋｅ　ｔｈｅ　Ｓｕｐｅｒ　Ｂｏｄｙ！！

～健康的で美しい体づくりへの挑戦～

事業報告

１．事業名：健康☆スリムダイエット事業～健康☆スリムプログラム～
　日　時：①健康☆スリム基礎プログラム５月１２日（日）１３：００～１７：００
　　②健康☆スリム実践プログラム５月１２日（日）～８月１１日（日）
　場　所：①クレイトンベイホテル花の間②広公民館５０１と調理実習室
　協力者：○ゲッタマン　○タニタ管理栄養士　龍口知子　○管理栄養士　水口洋子
　参加人数：５０名　　参加料：１０，０００円

事業概要

①健康☆スリム基礎プログラムは、２部構成で２０歳以上の方を対象に効果的なダイエットプログラムの基礎を学ぶ事業を実施した。内容は、適度な食事と適度な運動の２つを取り入れたものとし、２つの説明は各分野の専門的知識を持つ講師を招いて行った。１部では、タニタ管理栄養士が毎日体重を測る事がどれほど重要な事かを説明し、タニタ高機能体組成計で測定したデータの説明と食事のカロリーや食べ方について教えていただいた。２部では、ゲッタマンにゲッタマン体操と様々な体操を直接指導していただいた。

②健康☆スリム実践プログラムでは、基礎プログラムで学んだ事を３ヶ月間実践し、９回の報告会を経て最終測定に臨んだ。９回の報告会の内容は、５回の体操の日と、最終日含めた４回の料理教室を行った。体操の日は、呉青年会議所が主体となりゲッタマンから学んだ体操を参加者と共に集まって行い、料理教室は、管理栄養士の水口洋子さんに指導いただきながら５００カロリーの定食を作った。この３ヵ月間で参加者が挫けないように毎回必ず電話で出欠確認を行い、その都度相談や質問があれば対応した。

検証方法と効果

検証はアンケートで行ったが、ほとんどの方が、健康を意識するようになり、今後も生活に取り入れて行きたいという内容のコメントが多かった事から健康意識の向上という目的は果たせたのではないかと思っている。
効果としては、最大で６キロ。平均で２キロ減であった。

２．事業名：健康☆スリムダイエット事業ファイナル
　　ゲッタマンとタニタのヘルシーランチセミナー
日　時：１１月０４日（祝月）１１：００～１４：００
場　所：呉阪急ホテル　４階　皇城の間
協力者：〇ゲッタマン　〇タニタ管理栄養士　福永幸代
参加人数：１５０名　　参加料：４，０００円

事業概要

①委員長と講師２名によるディスカッション、②タニタ管理栄養士による講演、③ヘルシーランチ、④ゲッタマンによる講演、という流れでセミナーを行なった。

①ディスカッション
講師の会社紹介・自己紹介を行い、健康☆スリムプログラムの紹介とプログラムで得られた成果を発表し講演を開始した。

②タニタ管理栄養士による講演
タニタ管理栄養士　福永幸代さんには、タニタの社員食堂を語る上で重要なのは、はかる、分かる、気づく、変わる、この４つサイクルで、どんな事にもこのサイクルは応用が可能なので是非皆さんに活用していただきたいという説明から入り、カロリー・食に関しての話を中心にご講演いただいた。

③ヘルシーランチ休憩
阪急ホテルと打ち合わせを重ね、栄養士に相談しながら考えたヘルシーランチを提供した。

④ゲッタマン講演
ゲッタマンの講演は、パワフルで参加者のハートを掴むパホーマー的な要素もあり大変盛り上がった。参加者全員で体操を行ない、ゲッタマンは舞台から降りて参加者に直接指導するなどしていただいた。

検証方法と効果
アンケートで検証を行なったが、「今後も取り入れていきたい」「健康を意識した生活をしたいと思う」など、当委員会が年間を通して伝えたかった「健康意識」という事を伝える事ができたと思う。呉市の健康水準を高めた事になったのではないだろうか。

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

熱血☆ラジオ体操復活委員会
委員長　　三宅　徹郎

〔スローガン〕

みんなで広げるラジオ体操の輪

事業報告

１．事業名：呉のラジオ体操普及事業「呉の健康習慣促進プロジェクト」

日　時　：２０１３年7月２８日（日）～8月３１日（土）

場　所　：呉市の各地域のラジオ体操会場

協力団体：呉市（後援）、呉市教育委員会（後援）、呉市の小学校
株式会社かんぽ生命、呉市老人クラブ連合会

事業概要（方法）：

呉市の各地域（合計３２会場）にて１０，０００人同時ラジオ体操を実施した。７月２８日（日）と８月４日（日）に呉市の各３２会場でラジオ体操を行なった。当初８月４日は雨天時の予備日であったが、７月２８日が雨天で中止となったため、事業開催日を８月４日とした。目標は１０，０００人を目指していたが、結果は３２会場合計で４，３３２人となった。

次に呉市健康地域ＮＯ．１決定戦と称ジオ体操を行い、参加延べ人数で競う対抗戦を行なった。その集計結果を地区毎にまとめ、１位から３位を決定する内容だった。結果としては健康地域１位が阿賀地区、２位が仁方地区したラジオ体操地域対抗戦を行なった。

７月２９日（月）～８月３１日（土）の期間、呉市老人クラブの方を対象に、呉市の各会場にて毎日ラ、３位が昭和地区となり、記念品の楯を進呈した。

本事業でのラジオ体操の盛り上げ活動を元に、２０１４年に５０周年を迎える呉市老人クラブ連合会を主体として、２０１４年度夏季巡回ラジオ体操誘致を１０月９日に株式会社かんぽ生命に申し込んだ。正式発表は２０１４年２月の予定である。

検証方法と効果：検証方法は参加者に対してのヒアリング、参加人数の集計

本事業では呉市全域の自治会、老人クラブ、小学校に働きかけ、１０，０００人同時ラジオ体操と健康地域ＮＯ．１決定戦に参加していただいたので呉市

全域にラジオ体操が健康的な体づくりという意識が芽生えたと思う。なぜなら１０，０００人同時ラジオ体操の参加人数は４，３３２名だったが、この数値は実に呉市民の約５０人に１人が参加したということである。実際に参加者の声でこの事業の後にラジオ体操を継続的に始めたという方もいたので、この事業をきっかけに今後ラジオ体操の輪が呉市中に広がっていくと考える。

健康地域ＮＯ．１決定戦では呉市老人クラブ連合会の地区ごとに表彰したが、ある老人クラブでは年間通してラジオ体操を行っている地域もあり、そのことが各地域の老人クラブに公表でき、今までラジオ体操を行っていなかった地区もこの事業を通じて、継続してラジオ体操を行うようになったとの地域もあった。さらにラジオ体操を行うことで地域のお年寄りと子供たちとのつながりもできた。

毎日ラジオ体操を行っている会場

子供たちも多く参加した会場

地域のお年寄りや子供が声を掛け合って参加

ラジオ体操終了後の記念写真

１．事業名：呉のラジオ体操普及事業「呉の健康習慣促進プロジェクトファイナル」

日　時　：２０１３年１１月３０日（土）

場　所　：白岳小学校体育館

協力団体：呉市（後援）、呉市教育委員会（後援）

講師　１級ラジオ体操指導士　徳清　千恵子氏　、城みちる氏

事業概要（方法）：

第１部では、本当に健康づくりに効果のあるラジオ体操を参加者に学んでいただくため、１級ラジオ体操指導士の徳清千恵子氏をお呼びして、本当のラジオ体操を指導していただいた。ラジオ体操はみんなが知っている体操だが、本当のラジオ体操の仕方を学べば、ラジオ体操を行うことによってどのように健康に効果のあるのか、体のどの部分が強化されるかなどの意味がわかる。

第２部では徳清千恵子氏と城みちる氏を交えて呉市の各ラジオ体操会場を紹介しながら、新しくラジオ体操コミュニティのつくり方について会場の参加者に解説した。

参加記念品として、ラジオ体操健康手帳を参加者に配布した。この手帳の目的は１，０００回ラジオ体操を行うことができるよう１，０００回分スタンプを押せるようにした。

検証方法と効果：検証方法は参加者に対してのヒアリングを行なった。

本当のラジオ体操を学ぶ機会はなかなかないため、参加者のほとんどは貴重な経験ができたと満足する方が多かった。参加者の声として、本気でラジオ体操を行うと、ものすごく全身の筋肉を使うため、「ラジオ体操は健康に効果があるということが実感できた」という意見があった。参加したお年寄りの中で、「城みちる氏と一緒にラジオ体操ができ、いい記念になった」という声も多くあった。さらに参加者の中には徳清千恵子氏の指導に感銘を受け、自分たちの自治会でも受けたいとの申し入れもあった。

第２部のラジオ体操コミュニティの紹介では、ヒアリングの中で、参加者が近くのコミュニティに参加したくなったときき、その後の調査によると、実際に２箇所のコミュニティでは事業後にラジオ体操を行う方が増えた。

この事業終了後に参加者が、ラジオ体操が本当に健康に効果があることを実感し、呉市中にラジオ体操コミュニティが増えていくと確信した。

本気のラジオ体操を学ぶ参加者

全身の筋肉を伸ばす体操

ラジオ体操コミュニティの紹介

ラジオ体操によって体が柔らかくなった先生

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

Ｓ☆１委員会
委員長　　神垣　良子

〔スローガン〕

Sports is best！

～一歩 ALL 元気～

２０１３年度、私のテーマは体の元気。子供たちの体力低下やスポーツ離れが問題視されている事から、子供にターゲットを置いて事業構築を行った。

健康を維持していくには、体を動かし、お腹を空かせしっかりとご飯を食べ、睡眠をとることが大切である。体を動かすことを億劫としてしまっては、健康から遠ざかってしまう。そこでまずは、体を動かすこと、スポーツをすることを、今一度良いものであると認識してもらうことが必要だと考えた。

事業を行うにあたり、教育現場にて子供たちに多く接する機会が多い教師の方たちに、改めて現状について意見を聞いた。その中で気になったのが“２極化”である。運動が出来る子供は、昔より記録的にも向上しているが、出来ない子供は全く出来ない。この格差が、体力低下の原因の一つなのであれば、出来る子供だけでなく出来ない子供にも目を向ける必要があると感じた。

私自身、運動が出来ない子供で、体育の授業や運動会は本当にイヤでしかたなかった。そんな私が大学時代、運動部の門をたたき所属するに至ったのは、『マッスルミュージカル』と言うスポーツ興行において、カッコよく楽しそうに技を繰り出すトップアスリートに魅せられ、憧れを抱いたからである。そんな経験を、子供たちにしてもらうことが出来れば、体力低下、スポーツ離れの問題解決の一助にならないだろうか。運動することが苦手でも、「観る」という観点からスポーツに触れることは出来る。そこから憧れを通し「する」側への転換の“きっかけ”になりやすくなるのではないか。だからこそ、より多くの子供たちを対象とするためには、そのスポーツも楽しく観られるよう、パフォーマンス的要素が必要であると考えた。そして、この事業で感じた事は、ずっと記憶に深く留め、継続的な体作りに繋げてもらいたい。そこで、観て終わるだけでなく、凄い技を繰り出したアスリート達から直に指導してもらい、憧れの対象と間近で接してもらう事までを１セットとする。実際にスポーツを楽しく体験し、出来なかったことを出来るようになることで自信を

持ち、次もまたスポーツをしようと思う。そのイメージを軸に持ちながら、以下のような事業を展開した。

事業報告

１．事業名：スポーツ振興事業 with athlete　Ⅰ

『跳！跳！跳！（じゃんぷ！じゃんぷ！じゃんぷ！）』

日　時：２０１３年4月２９日（月）１０：００～１７：４５

場　所：呉市体育館前駐車場・呉市体育館

協力団体：

（後援）呉市、公益財団法人　呉市体育振興財団

（共催）呉市教育委員会

（その他）呉まつり協会

中田　大輔氏（プロトランポリンプレイヤー、オリンピック選手）

池谷　直樹氏（元体操選手、スポーツタレント）

（ボランティア）幼児活動研究会㈱３名、吉浦小学校教員１名

豊島小学校教員１名

事業概要（方法）：

呉みなと祭りが開催された４月２９日（月）１０：００から、呉市体育館前駐車場および呉市体育館メインアリーナを使用し、全日本トランポリン競技選手権大会等で活躍されていた中田大輔氏と、モンスターボックス（巨大跳び箱）の世界記録保持者である池谷直樹氏を招いて、パフォーマンス的演技の実演を行ってもらった。

また、小学生メインを対象に、トランポリン及び跳び箱についての上達塾、一般市民参加型モンスターボックスチャレンジを実施した。

事業内容の詳細については、以下に記す。

＜事業内容＞

・モンスターボックスチャレンジ　予選　　対象者：小学生以上（体育館内にて）

・みなと祭りステージ出演　事業告知（中田氏・池谷氏共）

・トランポリンショー２回（約４５分、約３０分）

・トランポリン上達塾１、２　対象者：小学生以下

・跳び箱上達塾１、２　対象者：小学生

・みなと祭り　パレード参加　事業告知（中田氏・池谷氏共）

・モンスターボックスチャレンジ　本戦　　対象者：小学生以上

検証方法と効果：

参加者及び見学者にアンケートを実施した。

トップアスリートのパフォーマンスは、普段観ることのできないトップアスリートの凄さに、「あまり感動しない子供が感激していた」「一流の技にびっくりした」との意見もあり、スポーツを極めた凄さを楽しく間近で体験してもらえたのは良かった。

モンスターボックスにおいては、市民を巻き込みチャレンジ型としたことで、一体感を得られたのではないかと考える。また、１７段の跳び箱を跳んだ参加者も凄かったが、更に１８段を池谷氏が跳んだことで、よりトップアスリートの凄さを伝えるこ

とが出来た。

遊び感覚で体験できるトランポリン、学校で習う跳び箱を種目選定したが、「トランポリンで単純に楽しんだ」といった回答や、「跳び箱の跳べなかった段が跳べるようになった」「楽しかったけど跳べなくて悔しかった」といった回答があり、スポーツの楽しい印象や、出来なかった事が出来るようになる事によって自信を持ち、もっとチャレンジしようという気持ち、楽しさと悔しさという感情を経験することにより、次も頑張ってみようという気持ちへと繋がったのではないかと考える。また、「楽しそうに体験している子供を観て嬉しく思った」との意見もあり、サポートしていく側の大人への印象も良いものであったと思う。

この事業で体験した憧れや楽しかった記憶を通して、スポーツを得意とする子供たちも、苦手とする子供たちも、今後もスポーツを続けていき、また新たに初めていく“きっかけ”を少しでも与えられたのではないかと考える。

画像４枚程度（２枚ずつ並ぶよう掲載する）

（中田選手と川西選手の息の合ったトランポリンショー）

（子供に指導する川西氏）

（モンスターボックス予選会）

（池谷氏が跳ぶモンスターボックス）

（子供に指導する池谷氏）

（全員で記念写真）

２．事業名：スポーツ振興事業 with athlete　Ⅱ

『跳！跳！跳！（じゃんぷ！じゃんぷ！じゃんぷ！）Ⅱ（第２弾）～１４人のサムライ～』

日　時：２０１３年１１月９日（土）１１：００～１６：１５

場　所：呉市総合体育館オークアリーナ（メインアリーナ・サブアリーナ・武道場）

協力団体：

（後援）呉市、公益財団法人　呉市体育振興財団

（共催）呉市教育委員会

（その他）㈱アートファミリー（池谷　直樹氏　他１３名）

（ボランティア）幼児活動研究会㈱４名、看護師１名

事業概要（方法）：

池谷直樹氏が率いるアスリートによる公演『サムライ・ロック・オーケストラ』に出演するアスリートのうち、体操選手中心に参加してもらい、第１部として呉市総合体育館オークアリーナ　メインアリーナにてパフォーマンスしてもらった。第２部として、各種目におけるトップアスリートとの触れ合いや各種目の上達塾を行った。

事業の印象を後々も持ち続けてもらうために、形の残るものを渡したいと考え、上達塾の最期には、指導を受けたアスリートとツーショットを撮影し、後日“上達塾修了証”として参加者へと送付した。

事業内容の詳細については、以下に記す。

＜事業内容＞

・第１部：屋内パフォーマンス（アクロバット、ジャグリング、ラート、体操、新体操等）

・第２部：上達塾（ラート、バトン、縄跳び、新体操、マット、トランポリン、鉄棒）各２回

検証方法と効果：

参加者及び見学者にアンケートを実施した。

４月の事業同様、トップアスリートのパフォーマンスは、普段観ることのできないトップアスリートの凄さに、前回事業と同様の感想が多かった。第２弾は、種目を１

４人のトップアスリートに来てもらい、馴染みの薄いラートを始め、マット、バトン、縄跳び、トランポリンといった種目を盛り込み１時間のパフォーマンスを観てもらったが、「ラートを始めてみたくなった」「いろんなスポーツに出会えてよかった」「もっと多くの人に観てもらいたい」など、スポーツに対して大いに興味関心を持ってもらえたのではないかと思う。

上達塾では、トップアスリートの指導により、「２重跳びが出来るようになった」「逆上がりが出来るようになった」「これからも上手く縄跳びが跳べそう」など、上達したことによって次回へのやる気に繋がったのではないかと考える。

また、親の感想として「夢中になり生き生きとしていて嬉しかった」「頑張る姿を見られ、もっと頑張ろうという気持ちになっていたのも嬉しかった」との意見もあった。親の理解があってこそ続けられる事もあるので、そういった点では親にスポーツに対する理解を改めて深めることが出来たことは良かったと思う。また、後日送付した修了証は、子供達がとても喜んでいるとの意見もいただき、形が残るものがあることで、事業が終わった後も、この事業で感じたことを思い出してくれるのではないだろうか。

第２弾では、４月の事業に参加をした子供たちも多く参加をしており、２つの事業を通し、続けてスポーツに触れていく“きっかけ”になったのではと感じている。

画像４枚程度（２枚ずつ並ぶよう掲載する）

（パフォーマンス　ラート）

（パフォーマンス　バトン）

（パフォーマンス　子供達の上をジャンプ）

（上達塾　ラート）

（上達塾　マット）

（上達塾　縄跳び）

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

心の元気委員会
委員長　　船田成治

〔スローガン〕心を元気に～絆～

事業報告

１．事業名：ＫＵＲＥ　ＨａｐｐｙＰｒｏｊｃｔ
　　第１弾　ボウリングｄｅ街コン

日　時：２０１３年4月２１日（日）第1部１４：００～１５：３０
　　第２部１６：００～１８：００

場　所：第１部　呉マリンボウル
　　第２部　海軍さんの麦酒館

協力団体：なし

事業概要（方法）：

第１部

呉マリンボウルにて男性４４名・女性４３名の参加者のもと、まずは練習ボールを兼ねた自己紹介を行い、気に入った相手の番号に印を付けるインプレッションカードを記入していただいた。男性４名対女性４名のチーム（そのうち、１チームは男性４名・女性３名）を１１チームに分け、ハイボール形式でチーム対抗戦を行い、出会いの場を提供した。

第２部

海軍さんの麦酒館に移動し、１テーブル男性４名・女性４名の計８名を交互に着席するテーブルを合計１１テーブル用意し、計４回の男性のみの席替えと最後３０分間のフリータイムで出会いの場を提供した。

検証方法と効果：

終了後参加者にアンケート調査

参加者からの意見や、今後の事業への参考になる回答が得られた。

多くの参加者が、楽しかった、次も参加したいと答えており、また、良い人が見つかりましたかの質問で２３名の方から見つかったという意見が有ったため、出会いの場として効果があったと思うが、インプレッションカードの結果をカップルが成立している参加者に直接伝えていればもっとカップルが増えた可能性もあった。

２．事業名：６月例会

日　時：２０１３年6月３日（月）１９：５２～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３Ｆ天の間

協力団体：なし

事業概要（方法）：

最初にパワーポイントを用いて、当委員会の基本方針・目的及び当委員会が考える問題点・解決策をメンバーに説明した。その後、４月に開催したボウリングｄｅ街コンの事業報告、検証（参加者からのアンケート結果・参加者へのインタビュー）を行い、ピックアップした出会いの場をプレゼンでメンバーに発表し投票を行った。最後に当委員会が今後行う事業の目的・思いを説明し、最後に「ブリ大根」を題材に、既存の街コンにはない違うものと違うものを足し、一つのものをつくる事業を行うという決意表明をした。

検証方法と効果：

メンバーへヒアリングを行い、意見を集めた。

事業報告、検証、プレゼンをする中でメンバーを巻き込み、当委員会の想いを伝えることができた。

選挙での結果を参考にして次回開催する事業（案）に反映した。

３．事業名：ＫＵＲＥ　ＨａｐｐｙＰｒｏｊｃｔ

第２弾　ＳＵＮＳＥＴ ＰＡＲＴＹ　ｉｎ恋ヶ浜

日　時：２０１３年8月３１日（土）　１６：００～２０：３０

場　所：恋ヶ浜キャンプ場

協力団体：なし

事業概要（方法）：

事業は悪天候のため、中止とした。経緯詳細

① ８月３１日（土）延期判断

８月２８日（木）　８月２９日（金）と一日ごとに台風の進行状況が変わり、事業開催日の判断に迷っていたが、８月３０日（金）午前中の時点で８月３１日は温帯低気圧・台風の予報が出ていたため、予備日の９月１日に事業を行うことにし、参加者には、個別に連絡を取り、全員に連絡をした。

② ９月１日（日）中止判断

９月１日（日）事業当日　９時頃大雨警報が出ており、以降も雨が多く降る予報になっていたことと、事業場所が海水浴場の浜辺横ということもあり、大雨警報の中、事業を行った場合、外部参加者の安全が確保できず、事故や怪我など最悪な状況も想定されたため、事業を中止しました。

参加者には個別に連絡を取り、参加者全員に連絡をした。

４．事業名：ＫＵＲＥ　ＨａｐｐｙＰｒｏｊｃｔ

第３弾　秋の味覚を食いつくせ！！食いだおれ合コンパーティー

日　時：２０１３年１０月１２日（土）　１８：００～２０：３０

場　所：海軍さんの麦酒館　野外デッキ

協力団体：ＲＣＣ文化センター　アナウンス教室生徒：２名

マルカネ青果：１名

事業概要（方法）：

海軍さんの麦酒館（屋外デッキ）を貸切にして、男性５０名・女性５０名（合計１００名）の２０歳から４５歳までの独身男女から、男性５０００円・女性３０００円の参加費をいただき、マグロの解体ショーを行い、まぐろの刺身・牛肉・松茸等の秋の味覚をコンセプトに出会いの場を提供した。

最初の４５分間を固定席にし、その後はフリーとした。また、事業開始から１時間４５分後に印象カードを集め、集計したものを参加者に返却した。

検証方法と効果

参加者へのアンケート調査・メンバー及び外部協力者へのヒアリング調査

参加して楽しかったですか・次回も参加したいですか、という質問に対して、半数以上の参加者が楽しかった・次回も参加したいと回答しており、更に良いお相手は見つかりましたかという質問に対しては、２４人もの参加者が見つかったと回答していることから、事業効果は十分にあったと思われる。

メンバー・外部協力者からも、司会が上手だった、笑顔の参加者が多かった、とても楽しそうだった、会場全体が盛り上がっていた、という意見をいただき、設営側から見ても効果があったと思う。また、前回の事業後より２次会に行く参加者が多くいたように感じた。

５．事業名：ＫＵＲＥ　ＨａｐｐｙＰｒｏｊｃｔ
　　第４弾　ＫＵＲＥ　Ｎｉｇｈｔ Ｃｒｕｉｓｉｎｇ Ｐａｒｔｙ
　日　時：２０１３年１２月１日（日）　１８：００～２０：００
　場　所：銀河
　協力団体：なし
事業概要（方法）：
　銀河を貸切りにして、男性７３名・女性７３名（合計１４６名）の２０歳から４５歳までの独身男女から、男性６５００円・女性４５００円の参加費をいただき、ナイトクルージングにて出会いの場を提供した。
　最初から最後まで、完全フリーの出会いの場とし、二人きりで会話をしたい人に３階の特別室を提供した。
　航路：大和波止場→広島大橋→大和波止場(２時間クルージング)
検証方法と効果
　参加者及びメンバーへのヒアリング調査
　参加者に対して参加して楽しかったですか？という質問に対して、ヒアリングした半数以上の方から楽しかったという意見を貰った。また、２次会に行った参加者も今までと比べて多くいたように感じた。

参加人数が多すぎて圧倒されあまり話が出来なかった、ディナークルーズを期待していたが料理が軽食のみだったので不満等の意見が有ったが、チラシにも軽食のみと記載はしていたが、もう少し丁寧な説明文があってもよかった。

設営側のメンバーからも・笑顔の参加者が多かった、とても楽しそうだった、会場全体が盛り上がっていた。２人で会話をしたい参加者が、３階に上がる設営が良かった等の意見が有り、参加者が満足していると感じて頂いたということは、設営側から見ても効果があったと思う。

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

アカデミー委員会
委員長　繁山　晃洋

〔スローガン〕マンパワー

事業報告

１．事業名：マンパワーアッププロジェクトⅠ
　日　時：２０１３年4月１３日（土）　１３：００～１８：００
　場　所：大和ミュージアム　４Ｆ会議室・研修室
　協力団体　：（公社）日本青年会議所

事業概要（方法）：

仮入会員に自分たちが入会した呉青年会議所がどんな団体でどのようなことを行ってきたのかを知ってもらう為に、まず青年会議所の基礎知識と概要についてアカデミー委員会メンバーより説明をした。

その後、過去の事業紹介として、２０１２年度に行われた「超ド級日本一の太巻きつくり」と「あの人いいねフォトコンテスト」の２つを紹介した。紹介方法として、事業当日の写真をパワーポイントで映しながら、事業の目的、当日の感じ、事業を行うことによって得られたことなどについて説明をした。

休憩を挟んだのち、日本ＪＣ公認トレーナーを４人招き、ＰＩＰプログラムを行った。大きく分けて５個のプログラムから編成されており、①「外から見た自分を知ってもらう」②「ＳＳ理論を用いて自分を分析し、自分の知らない内なる自分を知ってもらう」③「自分のこれまでの人生を振り返りＭＹ　ＣＲＥＥＤの作成」④「ゲームを通して人生を疑似体験」⑤「皆の前で目標の発表」にて終了。

検証方法と効果：

仮入会員にヒアリングを行った。

（基礎知識・過去の事業紹介部分での効果）

基礎的な事やＪＣの歴史について冒頭の紹介と小冊子での解説がわかりやすかった。また、ＪＣＩクリードやＪＣ宣言文などが諸先輩方によって制定された事や、ブロック、

地区、日本、JCI といった組織についても知ることができた。

（PIP プログラムでの効果）

４時間があっという間に過ぎ、今後の自分にとって大変勉強になった。また、社会人になってなかなか自分を省みる事のない中で、未知の自分をみつけ、どう活かしていくか再認識できた。他人から自分の評価を聞くことにより、自分が思っている自分とは違う自分が発見できた。

このセミナーを通して仮入会員は自分の新たな一面を知ることが出来、また現在の自分があるのは多くの人のおかげである事を改めて感じ、自分が成長していく事、さらには青年会議所活動を通して社会に還元できる事を感じたと思います。

２．事業名：マンパワーアッププロジェクトⅡ（６月仮入会員セミナー）

日　時：２０１３年6月２２日（土）　１３：００～6月２３日（日）１２：００

場　所：大空山青年の家、及びその周辺

協力団体　：呉市環境政策課　三浦氏

事業概要（方法）：

大空山青年の家にて１泊２日の日程でセミナーを行った。開会式終了後に、呉市環境政策課の三浦氏より、呉市の不法投棄の現状について話していただき、その後グループを４つに分け、オリエンテーリングを行った。班ごとにゴミ袋を持ち、ゴミを拾いながら各チェックポイントを回った。チェックポイントは４か所設け「ＪＣ宣言・綱領」「ＪＣＩクリード」「ＪＣミッション・ビジョン」「ＪＣソング・若い我等」のテストを行った。また、お大空山の登山道では不法投棄されているゴミ（2ｔ車２台、軽トラック１台分）も回収した。オリエンテーリング終了後は入浴したのち夕食を皆でとり、その後居酒屋の青春を行い１日目のプログラムは終了。翌日は６時半からラジオ体操をした後、朝食をとり館内清掃を行った。８時からはテーマを２つ設け、ＫＪ法を用いてディスカ

ッションを行った。最後に仮入会員の振り返りとして、１人３分程度で感想を述べ、同期会会長の徳田君より同期会名（朝友会）を発表してもらい全てのプログラムは終了した。

検証方法と効果：

仮入会員にヒアリングを行った。

多くの現役会員の方と一緒に汗を流しゴミ清掃を行い、ゴミに関する討論をしていく中で少しずつではあるが呉青年会議所に打ち解けられた様に思う。また居酒屋の青春では、お酒も入り肩の力も抜け良かった。この年になって大勢の人数で泊まる経験はなかなか無く、仮入会員同士はもちろん、現役会員の方々とも色々な話ができて良かった。

寝食を共にし、汗をかき、意見を交わすことを通して、自分の考え方や行動の仕方などの様々な部分を互いが知ることができ、一番の目的である同期の絆を深めるという目的を達成するには最適だったと思う。

３．事業名：１０月例会

日　時：２０１３年１０月７日（月）１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体　：なし

事業概要（方法）：

２部構成とし、第１部ではアカデミー委員会がパワーポイントを用いながら仮配属についての検証、その後会員拡大についての成果、検証、問題点をパワーポイントと寸劇を交えて発表した。仮配属については事前に各委員会にアンケートをとり、それをもとに検証を行った。

第２部では、仮入会員が半年間のインターン期間の研修成果を仮入会員担当例会といった形で行い、仮入会員の考えた事業「３９・３９・サンキュー」の事業当日のイメー

ジを寸劇にて発表した。

　最後に仮入会員同期会会長より決意表明を発表し、バッジ授与式を行い例会を終了した。

検証方法と効果：

各員会及びメンバーへのヒアリングを行った。

（ヒアリングの一部抜粋）

・会員拡大の提案部分がＣＭ風で興味を持てた。

・仮想事業のイメージがとても分かりやすく伝わった。・仮入会員に全員の力が結集され素晴らしかった。

　効果として、今年の新たな取り組みであった仮配属の良い点、改善すべき点を明確にすることができた。また、会員拡大については、前向きな取り組み方を提案し、少しでも興味を持ってもらい、そして全員の問題であり、全員で取り組んでいかなければならないことを再認識してもらった。

仮入会員担当部分では、０から自分達で考え、それをどのように伝えていくかといった事に悩み、そして形にしていく過程の中で同期の絆も深まり、例会を終えた時には大きな達成感を得ることが出来たと思う。この時の経験が今後のＪＣ活動の源になると思う。

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

呉の元気発信委員会
委員長　　折口　篤志

〔スローガン〕　　志

現在、インターネット内において多くのコミュニケーションが図られているという事実にあって、本年度呉の元気発信委員会はその流れに逆らうことなくＳＮＳをはじめ様々な手法を用いて広報活動を行いました。しかしながら、我々はそれだけの方法に頼るのではなく実際にまちに出て顔を売り、（公社）呉青年会議所の事業をひとりでも多くの人に知って頂き、また参加して頂く為に活動を行いました。

結果、本年度開催された多くの事業に対して参加動員につなげることができたことは成果だと考えます。しかしながら事業によっては動員に苦戦する場面もあり、全ての事業において満足な成果が挙げられなかったことは課題となりました。

公益社団法人として今後様々な事業を打ち出していくにあたり、事業の広報と募集活動が大変重要な役割となってくることは間違いありません。いくら良い事業を行っても事業参加者が集まらなければそれは成功とはいえず、公益目的事業の達成も危うくなります。

一年間の活動の中で得られた経験を次年度に引継ぎ、広報としての精度を高めていくことにより、より多くの事業参加者を集め、多くの人たちが笑顔になれる明るい豊かな社会実現を目指し、今後も活動を行って参ります。

一年間、ありがとうございました。

事業報告

１．事業名：事業計画書作成

日　　時：２０１３年１月中。
場　　所：メール便にて発送
協力団体：なし
事業概要（方法）：
①スローガン、基本方針、理事長所信、専務理事挨拶、事務局長挨拶、副理事長挨拶、室長挨拶、委員長所信、年間事業計画、理事長公職委嘱を記載しました。

検証方法と効果：
①事業計画書の内容につき関係諸団体にヒアリングを行いました。
手交先では概ね好意的に話を聞いてもらうことが出来、特に呉市教育委員会長谷川教

育長、呉市保健部山口保健部長、呉市役所企画情報課岩田課長補佐においては着座の上事業計画書を見ながら今年度の呉青年会議所の基本計画及び事業方針を伝えることができました。
また、そこから呉市における問題点と呉青年会議所に対する期待を直接伺うことができ、１年間の活動を行うに当たってさんこうとすることができました。

２．事業名：会員手帳作成

日　　時：２０１３年1月中
場　　所：メーリングリスト（現役会員）
　　定期発送物（特別会員）
　　ゆうメールにて発送（関係諸団体）
協力団体：なし
事業概要（方法）：
　コストを最大限圧縮するために例年の手帳サイズを廃止し、ＰＤＦとしてホームページ上のメンバー専用ページにて公開しました。
　掲載内容については「組織図」「スローガン及び理事長所信、年間基本資料」「会員名簿・特別名誉会員名簿・特別会員名簿・特別会員退会者・会員物故者・特別会員役員」「定款・諸規定集」「ＪＣ用語集」「索引」「同好会スタッフ名簿」「ＪＣＩミッション・ＪＣＩクリード」の順に掲載しました。

検証方法と効果：
　①会員手帳配布後に現役会員及び特別会員より意見を伺いました。
（１）スマートフォンで直接ダウンロードできる様に圧縮ファイルではなく通常ＰＤＦにする方がのぞましい。
（２）ファイル名がわかりづらいので一目でわかるようなファイル名に変更してほしい。
（３）電子手帳化するならばアプリを作成した方が良いのではないか。

（４）ＰＣ及びスマートフォンから閲覧できるのならば索引にリンクを貼って個人住所録に飛ばすとかなり使い勝手が良くなるのではないか。
（５）印刷予算を全額本予算で計上するのではなく手帳希望者のみ印刷にするか、印刷は自己負担にするなど対応した方が良かったのではないか。
（６）特別会員会費は会員手帳が毎年送られてくるから支払っていたのに、ＰＣを所持していない者としては閲覧できない手帳に対してお金を支払う理由がなくなった。

②現役会員からはＰＣによるダウンロードの為使い勝手に関して問い合わせがあった為、２月第１例会にてスマートフォンでの使用法をペーパー配布にて伝達しましたが、特別会員からは多くの意見を頂いたものの賛否が分かれました。

　近年卒業の特別会員からは賛同の意見が多く有益な意見を頂きました。
上に記載の（１）（２）については無料にて対応できることからバージョンアップにて対応しましたが、（３）についてはアプリ作成に係る費用の問題及びセキュリティの問題があり、（４）（５）についても予算の問題が発生する為、次年度以降の課題として引継をおこないます。

３．事業名：４月例会第二部

日　　時：２０１３年４月１日（月）
場　　所：クレイトンベイホテル３階天の間
協力団体：なし
事業概要（方法）：呉ＪＣ発信事業」の説明及びみなと祭りで行う広報活動について周知を行いました。

① 社）呉青年会議所が今までみなと祭りとどのように関わりそれがどの様な意味を持つのかを、過去みなと祭りで事業を行った委員長経験者の賀谷満夫先輩と山科賢司先輩へのインタビューを交えながらＶＴＲ等を用いてプレゼンテーションしました。
② ＪＣ発信事業「呉ＪＣ徹底的にＰＲしようぜ！」の事業について、審議可決後から当日までの流れをＶＴＲ等用いてプレゼンテーションしました。
③ Ｓ☆１委員会と合同でＶＴＲを作成し、両事業がお互いに関わりを持つことで成功に繋げていくということをメンバーに発信しました。

検証方法と効果：
①メンバーへのヒアリングにて意見を集めました。

・ 「多方面にわたる広報活動の強化」、「効率的で効果的な広報活動による事業動員の最大化」という委員会が伝えないといけない項目は十分伝わった。
・ みなと祭りの広報をするという事が分かっていたので、何を行うのかが分かり易く聞きやすかった。
・ 面白い所と真面目な所を設け、例会を飽きさせない工夫がされていた。
・ 最後の掛け声で盛り上がりみなと祭り頑張ろうという気になった。
・ 委員会のユニフォームが良く、自身が歩く広報を行うという委員会の意気込みが伝わった。
・ 合同例会という事で、Ｓ☆１委員会と呉の元気発信委員会が合同で VTR を作成していたが、単独例会の箇所と VTR の内容が被っている部分があり各委員会がバラバラで例会を行っていた。合同で１つの流れにした方がより綺麗に分かり易かったのではないか。もしくは合同でやらなくても良かったのではないか。
・ OB インタビューの箇所で声が聞き取りにくかったので音量を上げて欲しい、もしくはテロップなどを付けて欲しい。
・ プロジェクターが動かなくなった件は残念であった。

４．事業名：呉ＪＣ発信事業「呉ＪＣ徹底的にＰＲしようぜ！」

日　　時：２０１３年４月１日～４月２９日
場　　所：ラジオＣＭ放送及びみなと祭り会場
協力団体：ＲＣＣ中国放送
事業概要（方法）：
当日までのＰＲ活動（公共交通機関及びラジオ、くれえばん他、メディア出演、関係諸団体の協力等

（１）呉市内を走る広島電鉄バス１５０台の車内にチラシの掲載を依頼し、実行して頂きました。また呉市内タクシー会社朝日交通、平和タクシー、東和交通各１０台の車内にチラシ１０枚ずつを置いて頂きました。
　ＪＲ西日本の広駅、呉駅、吉浦駅、天応駅、呉ポートピア駅にポスターを掲示して頂きました。そして瀬戸内航路フェリー及び呉港にポスターを掲示して頂きました。

（２）地元情報誌くれえばん、中国新聞呉地方面、市政だより及びボランティア情報誌に事業告知及び募集記事を掲載して頂きました。

（３）みなと祭りに行われるスポーツ振興事業 with athlete　Ｉを１ヶ月間に渡りラジオＣＭを用いて告知を行いました。ラジオＣＭについては、スポーツ振興事業 with athlete　Ｉの参加者募集期間内で放送するものとし、放送局はＲＣＣ中国放送を選定、ＣＭの制作にあたってはＲＣＣ本名正憲アナウンサーによる吹き込みを行いました。放送回数は２０本で放送帯は午前中の番組内「本名正憲のおはようラジオ」「ごぜん様さま」内にて行った。ＲＣＣラジオごぜん様さまにＳ☆１委員会神垣良子委員長と出演し、事業告知を行いました。（４月１９日）
　パブリシティとしては、ＲＣＣテレビ番組内にて事業告知及び募集案内を放送して頂き、広島テレビ番組内まちかど伝言板にＳ☆１委員会神垣良子委員長と出演し、事業告知を行いました。（４月１９日）

２．みなと祭り当日のＰＲ活動（ステージ上でのＰＲ、ブースの設営）
（１）当日設営されるスポーツ振興事業 with athlete　Ｉのテント内及び蔵本通り周辺に於いて当日の事業案内を行うと共に元気☆ハツラツ室が行う他の事業の告知（チラシ配布、ポスターを持ち行進）を行いました。
（２）メインステージに中田氏池谷氏と共に登壇し、司会の案内の元事業ＰＲを行いました。

（３）来場者にはアンケートを配布してスポーツ振興事業 with athlete　Ｉに来場した理由及び何でイベントを知ったか等、ＣＭによる告知効果の検証を行いました。

３．ブースの設え（会員拡大のぼり、横断幕他、当日のブースイメージ）
　ブースには新入会員募集ののぼりを設置し、トランポリン設置上には横断幕を設置し常時会員募集を行っていることをみなと祭り参加者に周知しました。

４．パレードへの参加
　パレードには「ＢｅＨａｐｐｙ」横断幕、「新入会員募集」横断幕及びのぼり、そして事業告知ポスターを掲げて社団法人呉青年会議所と今年度の事業告知を同時に行いながら行進しました。
　また池谷氏、中田氏も一緒に行進してもらう事によって、当日の事業 PR を行いました。

検証方法と効果：
　①スポーツ振興事業 with athlete『跳！跳！跳！（じゃんぷ！じゃんぷ！じゃんぷ！）の参加者、周辺の観客へアンケートを取り検証を行いました。アンケート総数１２０枚。
　②アンケートの結果を検証すると、問１にあるスポーツ振興事業 with athlete Ｉを知ることとなった理由として小中学校からの案内が４５票と１位の結果となっています。

当事業「呉ＪＣ発信事業」で行った広報活動（ラジオ、テレビ、新聞、くれえばん、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、市政だより、ポスター等）を総合すると７６票と全体１４０票の過半数を数えることから、「多方面にわたる広報活動の強化」が一定の効果を及ぼしていると考えられます。

本事業に於いて大半の予算を費やしたラジオＣＭに関しては、ラジオＣＭを行っていたことを認知していたのは１２０名中１８名で、１８名の内１３名が事業への参加意欲を高め、１１名が事業を知った理由に挙げていることからラジオＣＭそのものの告知する力はあったと考えられます。

社団法人呉青年会議所に対する認知を問う質問に対しては、社団法人呉青年会議所の存在を確実に認知している人は４５名と全体の３７．５％でありました。

５．事業名：９月例会

日　　時：２０１３年９月７日

場　　所：記念式典　高知市文化プラザかるぽーと
　　大懇親会　三翠園

協力団体：公益社団法人高知青年会議所

事業概要（方法）：

１）事業動員の最大化を図るべくロムツアーを企画し実施致しました。

２）（公社）高知青年会議所の６０周年記念式典に参加し、その後開催された大懇親会に参加しました。

３）記念事業である土佐風土祭りに参加しました。

検証方法と効果：

①各委員会及びメンバーへのヒアリングを行いました。

（１）ロムツアーを行い動員の呼びかけを行った結果多くのメンバーが参加することとなり、昨年の呉ＪＣ６０周年例会に対する恩返しができた。

（２）大懇親会の締めであるエールが大変盛り上がり、高知ＪＣメンバーより感謝の言葉があった。

（３）記念式典に先立ち呉ＪＣにＶＴＲ等の依頼を行ったが、大変協力的であったと感謝された。

②当初よりメンバーに対して昨年高知ＪＣが我々の６０周年記念例会に多くのメンバーが参加してくれたことを周知したことにより、現役会員６１名を含む総勢８１名が参加することとなりました。

まさに兄弟ＪＣの絆の強さと言えるものであり、今後ともこのような交流が末永く続いていくことが期待できる事業となりました。

しかしながら今年度の９月例会は６０周年記念式典及び大懇親会であった為、例年のような直接的な意見交換及び交流活動を行うことが困難でありました。またロムツアーを企画して動員に努めたものの、仮入会員に対してのフォローアップが足らず、バスツアー参加者が伸び悩んだことは課題となりました。

大懇親会においては締めに呉ＪＣからエールの依頼があり実行致しましたが、通常とは異なる呉らしさを前面に出したエールを送ったことにより、多くの高知ＪＣメンバーから感謝の言葉を頂くことができました。

６．事業名：２０１３年度ホームページ作成、更新、管理

日　　時：２０１３年度を通じて
場　　所：
協力団体：なし
事業概要（方法）：
①全体構成
基本的な構成は例年のものを踏襲し、トップページから各ページへのアクセスを容易にしました。
②事業告知、事業報告について
事業告知については審議可決後に速やかにトップページにバナーを配置し、申込ページを設置しました。
事業報告についてはホームページ更新スケジュールに沿って事業終了後に更新を行いました。

検証方法と効果：
①今回、ホームページ会社の選定を行うにあたりコストを第一条件としましたが、かかるコストに対する更新の対応は大変迅速であり、更新については概ねスケジュール通り行うことができました。
　事業告知ページ作成については、当初より業者から言われていた通り別料金となったものの、各事業に対応した申込フォームの作成を行ったことで募集については概ねスムーズに行われていたと考えます。
　事業報告については従来の１事業１ページという方式からブログ方式に変更しましたが、変更に伴う不具合は見られず、むしろ写真の枚数が無制限であったことによる事業アピールの効果を上げることができました。
②アクセス数について、総アクセス数は４４０２１件となり、目標の５万件を下回ることとなりましたが前年アクセス数から増加した要因については、事業の申込みをホームページで行ったことと、フェイスブックを活用したこと、またラジオＣＭの放映やテレビ出演等ＰＲ活動を行ったことが挙げられます。
　特にフェイスブックページについては「いいね」数を３９５まで伸ばし、そこから波及効果によりアクセス誘導を行ったことが大きく、フェイスブックページ単体でも事業前は週間アクセス約１５００件程度あり、ホームページと同様事業に対する告知効果を生んでいたと考えます。

７．事業名：事業報告書作成

日　　時：２０１４年２月
場　　所：ホームページに掲載
協力団体：
事業概要（方法）：
①一年間の事業活動をもとにワードにて作成し、ＰＤＦ化したものをホームページ上に掲載しました。
構成については理事長報告、副理事長報告、専務理事報告、事務局長報告、室長報告、

委員長報告、修正決算報告書、監査報告書の順としました。
②配布については、ホームページに掲載後、メンバー及び特別会員、関係諸団体に案内を行いました。

検証方法と効果：
例年お世話になっている関係諸団体に対し一年間に行った事業の報告がなされたことは良かったと考えます。また公益社団法人として確実な事業報告が行われたことは当然の事とはいえ良かったと感じます。

（公社）呉青年会議所　２０１３年度　事業報告書

『事業報告』

ＪＡＹＣＥＥの力向上委員会
委員長　　明神　政之

〔スローガン〕　士不可以不弘毅

２０１３年度呉青年会議所において、ＪＡＹＣＥＥの力向上委員会には、「次世代に向けた強固な組織運営の確立」と「青年経済人・ＪＡＹＣＥＥとしての資質向上・能力開発」という二つの重任を任せていただきました。組織とは個の集合体であり、我々ＪＡＹＣＥＥも個々の人間である以上、個人の「力」を向上させることこそが、この二つの課題を解決する唯一の方法であると考え委員会名とし、一年間の活動を展開して参りました。その内容につきましては次項以下をご参照ください。

『士不可以不弘毅　任重而道遠　仁以為己任　不亦重乎　死而後已　不亦遠乎』

当委員会がスローガンに引用した文章です。リーダーというものは、広い見識と強い意志を持たなければならない。その責任は重く、進むべき道のりは遠い。思いやりの心を持って、初めてその責任を果たすことが出来る。何と責任の重いことなのだろうか。その責任は死んで初めて開放されるのである。何と道のりの遠いことなのだろうか。（論語　泰伯第八の七　より）

委員会のリーダー、委員長として一年間活動させていただいて、私自身が最も「力」を向上する機会を与えていただいたと、また、スローガンのように私自身が実践出来ていたのかと、改めて痛感している次第です。

このような未熟な委員長が、スタッフ、委員会メンバー、吉田副理事長と宍戸室長、呉青年会議所すべてのメンバーに支えていただき、何とか一年間やり通すことが出来ました。ここに感謝を申し上げ、当委員会の報告とさせていただきます。

１．事業名：総会並びに例会運営

日　時：毎総会・毎例会

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：毎総会において、資料作成・会場設営・受付・運営・司会・議事録作成を行った。

毎例会において、会場設営・受付・運営・司会を行った。ＪＣボックスには担当者を置き、規定に該当する場合、喜捨を求めた。

また、３月から９月例会ではメンバーの意識統一を図るツールとして、ＧＵＴＺ通信を発行した。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・スマートな設営で厳粛さもあり良かった。

・１００％出席例会は夢物語だと思っていたが、２度も達成出来たことはすばらしい。

・全体的に出席率が良かったと思う。メンバーの意識も変わってきたように感じる。

厳粛かつ緊張感のある運営を行い、ＪＡＹＣＥＥとしての意識統一と確認の場とすることが出来た。メンバー全員が組織・所属委員会の一員であることを自覚することにより、１００％出席例会を２度達成することが出来た。

２．事業名：２０１２年度１２月第１例会（次年度担当例会）

日　時：２０１２年１２月３日（月）１９：５０～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：次年度の基本方針をメンバー全員で共有することで、今後の地域貢献活動を展開する出発点とすることを目的とした。

スローガン披露の後、有本理事長予定者より所信及び基本方針の説明を行い、２０１３年度呉青年会議所の方向性を示した。理事役員、出向者の紹介、委員会顔合わせを行い、最後に委員会テーマソングをＢＧＭに各委員会が登壇し、委員会基本方針を示した。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・理事長所信が簡潔で分かりやすく、次年度のイメージが具体的に伝わってきた。

・委員長たちの熱意が感じられた。

２０１３年度呉青年会議所の明確な方向性を示す事が出来、理事役員・出向者及び委員会の紹介を通じ、メンバーの意識の統一を図る事が出来た。

３．事業名：１月第１例会（新年互礼会）

日　時：1月１２日（土）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：２０１３年度呉青年会議所の理念と基本方針について行政や関係諸団体に直接伝える事で、今後の理解と協力に繋げ、より成果の高い地域貢献活動を展開することを目的とした。

チアリーディングクラブＧＵＴＺによるパフォーマンスにより開会した。理事長はチアメンバーが作った人間ピラミッドの上に立ち、「呉ＪＣ！ＢｅＨａｐｐｙ！！」のかけ声を呉青年会議所メンバーと唱和し、スローガンに則ったパフォーマンスを行った。

来賓紹介、特別会員紹介を行った後、理事長挨拶を実施し、２０１３年度呉青年会議所の一年間の方向性を内外に明らかにした。最後に来賓より挨拶を頂いた。

検証方法と効果：メンバー、特別会員へヒアリングを行った。

・チアリーディングのパフォーマンスは今年のスローガンと合っており、また会場も大変盛り上がったので良かった。

・今年度の方向性がよく理解出来た。

行政や関係諸団体、特別会員に理念と基本方針を直接伝える事で、その認知、理解を深める事が出来た。

４．事業名：２月第１例会

日　時：２月４日（月）２０：２０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：当委員会の年間ビジョンをメンバーへ提示し、より精度の高い事業実施を目指し、意識の統一を図ることを目的とした。

副委員長による例会運営方針説明の後、委員会メンバーによるメークアップ、ＪＣボックス担当者の詳細説明。副委員長による会員研修方針説明の後、委員会メンバーによるＪＡＹＣＥＥパワーアッププログラムの概要説明とＪＣＩミッション・ＪＣＩビジョンの解説。最後に委員長挨拶を行い、改めて当委員会の方向性をメンバーへ示した。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・シンプルなプレゼンで分かりやすく伝えられたと思う。

・実際にやること、目的が明確に理解できた。

・１００％例会に対する委員長の熱い思いが伝わった。

当委員会の基本方針、年間ビジョンをメンバーに理解して頂き、意識の統一を図る事が出来た。

５．事業名：５月例会（ＪＡＹＣＥＥパワーアッププログラムⅠ）

日　時：５月７日（火）１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル

協力団体：呉青年会議所　特別会員　奥原祥司氏

事業概要（方法）：ＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての資質向上と能力開発をおこない、より高度な地域貢献活動の実施を可能とすることを目的とした。

我々青年会議所メンバーが地域のリーダーとして発展的な活動を実施・継続していくためにはそれ相応の能力が必要である。我々ＪＡＹＣＥＥはどうあるべきか、その責任と役割を最初に理解することによって資質向上・能力開発の土台を作るため、呉青年会議所　特別会員　奥原祥司氏を講師に招き、『我々ＪＡＹＣＥＥが地域のリーダーとしてあるために』をテーマとした講演会を実施した。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・１００％例会も達成でき、ＪＡＹＣＥＥとしての自覚をより促すことが出来たのではないか。

・若年入会者にとっては少し難しい部分もあったが、とても良い内容であったと思う。もう少し時間をかけて聞きたかった。

・ＪＡＹＣＥＥ、経済人としての先輩である講師からいただいたエールは心に響いた。

・会頭経験者の貴重な話が聴ける場を持てたことは有意義だった。

多くの有意義だったという意見から、ＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての資質向上と能力開発の一助とすることが出来たと考える。

６．活動名：ＪＡＹＣＥＥパワーアッププログラムⅡ

日　時：7月１１日（木）１８：３０～２０：５０

場　所：ビュー・ポートくれ

活動概要（方法）：ＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての資質向上と能力開発をおこない、より高度な地域貢献活動の実施を可能とすることを目的とした。

リーダーに最も必要とされる能力であるリーダーシップについて学びを得るため、当委員会がプログラム作成したセミナー『Ｔｏｍｂ Ｒａｉｄｅｒ　ＹＡＭＡＳＡＫＩ　～失われた秘宝～』を実施した。メンバーはチームに分かれ、１名リーダー役を選出し、２つのゲーム「男からの依頼」「紋章の謎」に挑戦した。最後に委員長を講師として学びと気付きの確認、共有を行った。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・リーダー役の負荷が大きかったが、特に若いメンバーにはよい経験になったのではないか。

・どちらのゲームもとてもよく考えられていた。頭を使ったし、話し合いも白熱した。

・リーダー役の人を見ることで気付きがあった。

セミナーを通してリーダーシップについての学びと気付きを得ることが出来た。これはＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての資質向上と能力開発に寄与したと考えられる。

７．活動名：ＪＡＹＣＥＥパワーアッププログラムⅢ

日　時：９月２７日（金）１９：００～２１：００

場　所：ビュー・ポートくれ

活動概要（方法）：ＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての資質向上と能力開発をおこない、より高度な地域貢献活動の実施を可能とすることを目的とした。

リーダーに最も必要とされる能力であるリーダーシップについて学びを得るため、当委員会がプログラム作成したセミナー『なるほど！ザ・リーダー　秋の呉ＪＣスペシャル』を実施した。

メンバーはチームに分かれ、問題毎に１名リーダー役を選出し、計７問のクイズに挑戦した。最後に副委員長を講師として学びと気付きの確認、共有を行った。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・クイズが色々なジャンルから出題されていて、よく練られていた。純粋に楽しめた。

・全員がリーダー役を担当出来てよかった。

・チームメンバーがどこまで知っているかによって、リーダーが対応を変えないといけないということが理解できた。

セミナーを通してリーダーシップについての学びと気付きを得ることが出来た。これはＪＡＹＣＥＥ、青年経済人としての資質向上と能力開発に寄与したと考えられる。

８．事業名：１１月例会（創立記念日例会）

日　時：１１月１１日（月）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：呉青年会議所の創立以来の歴史を振り返ることで当団体の理念を再認識し、今後より高度な地域貢献活動を実現することを目的とした。

特別会員紹介の後、呉青年会議所創立から公益法人格取得に至る歴史を卵に見立てた大型バルーンに投影、最後にバルーンを破裂させ、理事長が登場することにより社団法人から公益社団法人への生まれ変わりを表現した。

理事長挨拶を実施し、公益法人格取得について改めて報告がなされた。最後に特別会員会長より挨拶を頂いた。

検証方法と効果：メンバー、特別会員へヒアリングを行った。

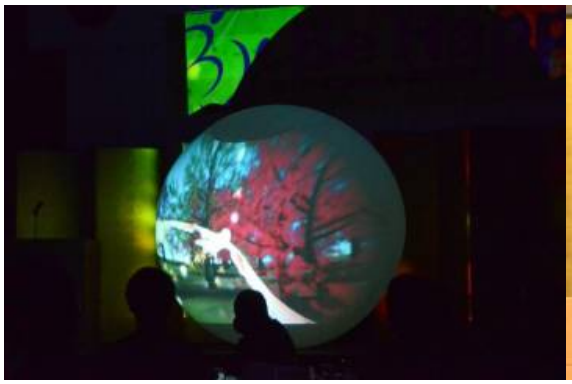
・映像をバルーンに映したり、最後に破裂させたり、インパクトがあってよかった。

・特別会員を全員紹介したのはよかった。

・歓談時間が長く、たくさんの方と懇親がはかれた。

・ＶＴＲのクオリティも高く、歴史や事業を振り返ることが出来た。

映像や特別会員との交流により、呉青年会議所の創立以来の歴史を振り返り、当団体の理念を再認識することが出来た。



９．事業名：１２月第２例会（卒業式・卒業送別会）

日　時：１２月２１日（土）１８：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：卒業生の功績を称えると共に、卒業後の公益活動を喚起することで、明るい豊かな社会を実現することを目的とした。

まず、卒業生の経歴紹介、感謝状授与、現役メンバー代表による送辞朗読、卒業生代表による答辞朗読を行った。

その後、ＶＴＲと理事長による総括スピーチにて、本年度事業の報告と検証を行った。最後に次年度理事長へ理事長バッジが、次年度専務理事へＪＣ旗が引き継がれた。

検証方法と効果：メンバー、特別会員へヒアリングを行った。

・厳粛な雰囲気で式を行うことができ、よかった。

・ＶＴＲで今年度の事業をすべて振り返ることが出来た。

厳粛な雰囲気の中、卒業式を執り行い、卒業生の功績を称えると共に、卒業後の公益活動を喚起することが出来た。

また、事業報告・検証を行うことにより本年度の呉青年会議所の軌跡を把握し、且つ次年度以降より高度な地域貢献活動を実現するための一助とすることが出来た。

公益社団法人 呉青年会議所　12月第2例会
卒　業　式

公益社団法人 呉青年会議所　12月第2例会
卒　業　式

2013年度公益社団法人呉青年

公益社団法人　呉青年会議所

会計報告書

自　　2013年6月7日
至　　2013年12月31日

【呉青年会議所】

貸借対照表

2013年12月31日現在

（正味損益用）

（単位：円）

	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
Ⅰ．資産の部				Ⅱ．負債の部			
１．流動資産	5,328,522	16,676,266	-11,347,744	１．流動負債	667,211	10,212,100	-9,544,889
現金	1,099,952	130,712	969,240	未払金	9,416	0	9,416
預金	3,481,912	12,869,944	-9,388,032	供託金	657,795	1,860,850	-1,203,055
未収入金	746,658	2,653,700	-1,907,042	前受金	0	7,851,250	-7,851,250
仮払金	0	465,410	-465,410	仮受金	0	500,000	-500,000
立替金	0	556,500	-556,500	２．固定負債	1,986,000	1,932,000	54,000
２．固定資産	5,361,259	3,732,000	1,629,259	退職給付引当金	1,986,000	1,932,000	54,000
（１）基本財産	3,375,259	1,800,000	1,575,259	負債合計	2,653,211	12,144,100	-9,490,889
基本財産預金	3,300,259	1,800,000	1,500,259	Ⅱ．正味財産の部			
基本財産未収入金	75,000	0	75,000	１．指定正味財産	3,375,259	1,800,000	1,575,259
（２）特定資産	1,986,000	1,932,000	54,000	指定正味財産	3,375,259	1,800,000	1,575,259
職員退職給付引当資産	1,986,000	1,932,000	54,000	２．一般正味財産	4,661,311	6,464,166	-1,802,855
				一般正味財産	4,661,311	6,464,166	-1,802,855
				正味財産合計	8,036,570	8,264,166	-227,596
資産合計	10,689,781	20,408,266	-9,718,485	負債及び正味財産合計	10,689,781	20,408,266	-9,718,485

当年度末　2013年12月31日
前年度末　2013年6月6日

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書

2013年6月7日から2013年12月31日まで

（単位：円）

勘定科目	前年度決算	本年度決算	増減
Ⅰ．一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
（1）経常収益			
受取入会金	（ 0）	（ 750,000）	
入会金収入		750,000	
受取会費	（ 0）	（ 9,538,750）	
正会員会費収入		7,062,500	
特別会員会費収入		2,476,250	
事業収益	（ 0）	（ 3,615,500）	
登録料収入		2,495,500	
補助金収入		400,000	
寄付金収入		720,000	
雑収入	（ 0）	（ 253,487）	
受取利息		1,418	
雑収入		252,069	
経常収益計	（ 0）	（ 14,157,737）	
（2）経常費用			
事業費	（ 0）	（ 10,723,744）	
給与(事業		1,090,193	
福利厚生費(事業		143,293	
旅費交通費(事業		1,113,570	
通信運搬費(事業		90,115	
消耗品費(事業		371,651	
広告費(事業		532,860	
印刷費(事業		794,580	
リース料(事業		53,000	
水道光熱費(事業		30,543	
会場費(事業		959,350	
賃借料(事業		374,395	
保険料(事業		45,120	
謝礼金(事業		2,252,055	
記念品費(事業		591,595	
清掃費(事業		36,750	
支払助成金(事業		250,000	
外注費(事業		1,923,374	
会場費(その他事業		69,300	
雑費(その他事業		2,000	
管理費	（ 0）	（ 2,772,099）	
給与(管理		1,090,194	
福利厚生費(管理		143,293	
賃借料(管理		374,395	

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書

2013年6月7日から2013年12月31日まで

（単位：円）

勘定科目	前年度決算	本年度決算	増減
水道光熱費（管理		30,544	
消耗品費（管理		125,952	
通信運搬費（管理		209,451	
印刷費（管理		116,831	
会議費（管理		13,860	
渉外費（管理		70,750	
清掃費（管理		36,750	
会計監査費（管理		178,500	
租税公課（管理		0	
支払手数料（管理		82,801	
諸会費（管理		61,953	
図書費（管理		4,000	
雑費（管理		178,825	
退職積立繰入額（管理		54,000	
経常費用計	（ 0 ）	（ 13,495,843 ）	
評価損益等調整前当期経常増減額	【 0 】	【 661,894 】	
評価損益等計	（ 0 ）	（ 0 ）	
当期経常増減額	【 0 】	【 661,894 】	
２．経常外増減の部			
（１）経常外収益			
経常外収益計	（ 0 ）	（ 0 ）	
（２）経常外費用			
会費等回収不能額	0	889,600	
経常外費用計	（ 0 ）	（ 889,600 ）	
当期経常外損益増減額	【 0 】	【 -227,706 】	
指定正味財産への振替額	（ 0 ）	（ 1,575,149 ）	
指定正味財産からの振替額	（ 0 ）	（ 0 ）	
当期一般正味財産増減額	【 0 】	【 -1,802,855 】	
一般正味財産期首残高	0	6,464,166	
一般正味財産期末残高	0	4,661,311	
Ⅱ．指定正味財産増減の部			
特定財産運用益			
預金利息収入	（ 0 ）	（ 110 ）	
一般正味財産への振替額	（ 0 ）	（ ）	
一般正味財産からの振替額	（ 0 ）	（ 1,575,149 ）	
当期指定正味財産増減額	【 0 】	【 1,575,259 】	
指定正味財産期首残高	0	1,800,000	
指定正味財産期末残高	0	3,375,259	
Ⅲ．正味財産期末残高	【 0 】	【 8,036,570 】	

（注）『「公益法人会計基準」の運用指針』（内閣府公益認定等委員会　平成20年4月11日、平成21年10月16日改正）により、前年度欄及び増減欄については記載していない

財務諸表に対する注記

Ⅰ 重要な会計方針
引当金の計上基準
・職員退職給付引当金
事務職員に対する退職給付金の支給に備えるため、退職金支給規定に基づき期末要支給額を計上している。

（単位：円）

事務職員退職給付債務	1,986,000
退職給付引当金	1,986,000

Ⅱ 会計方針の変更並びにその他の注記事項
・当期より、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律並びに公営社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の連する規定に基づく会計基準に変更した。

・未収会費の回収不能額の計上については、3ヶ年を超えて支払請求を通知したにもかかわらず、支払意思の表示が全く確認されないものを計上処理している。

・その他の会計処理については、一般に公正妥当と認められる公的会計基準に準拠している。

Ⅲ 流動資産及び基本財産の増減額及びその残高
流動資産及び基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
【基本財産】				
基本財産普通預金	0	1,500,259	0	1,500,259
基本財産定期預金	1,800,000	0	0	1,800,000
基本財産未収入金	0	75,000		75,000
小計	1,800,000	1,575,259	0	3,375,259
【特定資産】				
職員退職給付引当資産	1,932,000	54,000	0	1,986,000
小計	1,932,000	54,000	0	1,986,000
合計	3,732,000	1,629,259	0	5,361,259

Ⅳ 基本財産及び特定資産の財源の内訳
基本財産及び特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
【基本財産】				
基本財産普通預金	1,500,259	0	1,500,259	—
基本財産定期預金	1,800,000	0	1,800,000	—
基本財産未収入金	0	0	75,000	—
小計	3,300,259	0	3,375,259	—
【特定資産】				
職員退職給付引当資産	1,986,000	—	—	1,986,000
小計	1,986,000	—	—	1,986,000
合計	5,286,259	0	3,375,259	1,986,000

・基本財産当期増加額の変更は、予定会員数の減少のためである。

付属明細書

Ⅰ　基本財産及び特定資産の明細　　（単位：円）

区分	資金の種類		期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	周年事業等積立資産					
	（普通預金）	呉信用金庫	0	1,500,259	0	1,500,259
	（定期預金）	呉信用金庫	1,800,000	0	0	1,800,000
	（未収入金）		0	75,000	0	75,000
	基本財産計		1,800,000	1,575,259	0	3,375,259
特定資産	職員退職給付引当資産					
	（定期預金）	広島銀行	1,932,000	0	0	1,932,000
	（定期預金）	呉信用金庫	0	54,000	0	54,000
	特定資産計		1,932,000	54,000	0	1,986,000

Ⅱ　引当金の明細　　（単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
職員退職給付引当金	1,932,000	54,000	0	0	1,986,000

財産目録

2013年12月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）	現金	手元保管	運転資金として	1,010,316
			供託金として	89,636
	預金	【普通預金】	運転資金として	
		呉信用金庫	No456381	1,791,900
			No1011799(供託金)	739,629
		もみじ銀行	No2248674	338,937
		広島銀行	No0599404	611,446
			〈現金・預金計〉	4,581,864
	未収金	正会員6名 OB会員14名	当会計期間内に会員が納入すべき会費・入会金の未収分である	746,658
			〈未収金計〉	746,658
流動資産合計				**5,328,522**
（固定資産） 基本財産	預金	【普通預金】 呉信用金庫	【周年事業等積立資産】	1,500,259
		【定期預金】 呉信用金庫	周年事業等の積立資産として管理している	1,800,000
	未収金	正会員1名		75,000
			〈基本財産計〉	3,375,259
特定資産	預金	【定期預金】	【職員退職給付引当資産】	1,986,000
		広島銀行		1,932,000
		呉信用金庫	職員退職給付の引当資産として管理している	54,000
			〈特定資産計〉	1,986,000
固定資産合計				**5,361,259**
			うち引当等資産	5,361,259
資産合計				**10,689,781**
（流動負債）	未払金	共益事業		9,416
			送料	8,505
			用紙　キラット	911
	供託金	正会員	正会員個人が負担すべき登録料等の支払いのための預り金である	657,795
			〈未払金・供託金計〉	667,211
流動負債合計				**667,211**
（固定負債）	退職給付引当金	職員分	【退職給付引当金】 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の退職給付金	1,986,000
			〈退職給付引当金計〉	1,986,000
固定負債合計				**1,986,000**
負債合計				**2,653,211**
正味財産				**8,036,570**

（注）　2013年度期首及び期末の公益目的保有財産額の合計は次のとおりである

（単位：円）

期首	1,800,000
期末	3,375,259

監査報告書

公益社団法人　呉青年会議所
理事長　　有本　雄一　　殿

2014年1月21日

公益社団法人 呉青年会議所

監事　相原 新太郎

監事　田尻 康人

私たち監事は、2013年6月7日から2013年12月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備を努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

一、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果計算書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

監査報告書

公益社団法人　呉青年会議所
理事長　　有本　雄一　　殿

2014年1月21日

広島県呉市中通2丁目4番14号

武安会計事務所
監査人・税理士　武安紘二

上記、社団法人呉青年会議所2013年度収支決算報告書に関して本職は補助者2名をもって、社団法人呉青年会議所会計全般における現金の実査、預貯金の残高確認、諸帳簿の記帳確認、証憑書類、関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正・適法に処理が為されて且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。